

平成 27 年 9 月 24 日

# 南の風 150

南部ミニバスケットボール連盟  
会 長 藤原 敬一

私が観戦した、全中の総括的感想です。

今回の全中観戦は日帰りということもあり、観ることができたゲームが限定されました。そこで絞った結果、神奈川の相模女子と坂本の2チームと、全中報告で紹介しました、二島、藤浪、所沢山口の3チームのゲーム中心の感想となりました。

まずはオフェンスです。

結論から書きます。私は中学生であっても、ハーフコートのオフェンスをもう少し緻密に組み立てるべきだと思います。詳細は後述します。

3ポイントシュートスキルの向上が著しくなった昨今、外のシュート（3ポイントだけでなく、ペリメーター外のシュートを含む）を中心にオフェンスを組み立てるチームが増えました。

オフェンスの目的が得点を取ることである以上、シュートを打たなければ点を取るチャンスはないのですから、外のシュートを中心に攻撃を組み立てることは悪いとは思いません。しかし、オフェンスの目的をもう少し分析すると、得点を取るためには『確率のよいシュートを打つ』ことが求められます。確率のよいシュートとは、

- ①リングの近くから打つシュート
- ②数的優位からノーマークな状態をつくってのシュート

以上が挙げられます。3ポイントシュートを考えた場合、②はやり方次第で当てはまりますが、①は当てはまりません。もちろん3ポイントシュートには、1.5倍というメリットはあります。しかし安定したシュート確率を得ようとした場合、3ポイントシュートにはリスクが付きまといまう。

全中の女子のゲームでシュート確率が一番安定していたのは、やはり優勝した所沢山口でした。決勝で5番、6番の2人で36点（総得点61点）、4番の17点（含3ポイントの6点、フリースローの3点）を合わせると53点になります。このゲーム、3ポイントは2本入っていますが、3ポイントに頼った印象はありません。4番のシュート確率は（カットインorミドルジャンプシュートor3ポイント）、何と82%、5番、6番のシュート確率（すべてペリメーターの内外のジャンプシュートorミドルシュート）は、50%でした。非常に高い確率でした。

所沢山口は個々のシュート確率が高く、相当な本数を打ち込んでいるのだろうと想像が出来ますが、そのことより、私が強く感じたのは、オフボールマンがノーマークになる努力をしていることです。ボールを持たないプレイヤーが次の準備をしていることです。それは、目的を持った走り、ダッシュ、ストップ、カットに表れていました。一例を挙げます。速攻のランナーがサイドラインを走り、ボールを受けられなかった時の合わせです。ボールを持ったミドルマンはリングを見ます。ランナーと逆サイドの位置にいた、つなぎがエルボーにポストアップします。ボールは入りません。その時ランナーがエンドライン沿いをエクステンジして、逆サイドに走り、ボールマンからパスをうけます。それに合わせるようにポストマンがアングルを変えて、パスを受けシュートを決めます。 次号に続きます。